
日中社会学会ニューズレター

Japan-China Sociological Society Newsletter

No.87 2023.5

<目次>

会長あいさつ……	1	
第 35 回大会をお受けするにあたって……	2	
開催校シンポジウム……	3、シンポジウムⅡ……	4
大会への参加方法……	4	
第 35 回大会プログラム……	5	
事務局からのお知らせ……	9	
会場案内		

■会長あいさつ

第35回大会、第45回総会に向けて

会長 西原和久

(名古屋大学名誉教授・成城大学名誉教授・南京大学客員教授)

日中社会学会の第35回年次大会が、本年6月3日、4日に名古屋大学の坂部晶子理事のもとで開催されるに先立って、会長として一言ご挨拶申し上げます。

昨年度は、日中社会学会の学会誌『日中社会学研究』の第30号を刊行することができました。ひとえに会員の皆様のご尽力の賜物です。また取りまとめの編集委員会の大変なご尽力にも深く感謝申し上げます。

2022年度は、学会誌30年のみならず、日中国交正常化50年目の節目でもありました。そして今年度は、大会35回目、学会誌31号、日中新関係51年目に新たに踏み出す年度となります。今後の10年、20年、30年を見据えて、しっかりと地に足を付けた社会学研究を進めていくべく、その土台作りを私の会長の期間におこないたいと考えております。

昨年の会長就任あいさつで述べたのは、若い世代を巻き込んだ会員の日中交流研究を含めた研究の活性化と、日中を中心としつつも東アジアや世界を志向する研究、そしてそれらの研究を通した日中の相互理解や、ひいては東アジアや世界の平和に貢献する方向性を重要視していきたいということでした。

そのためには、まずもって過去を踏まえた現状認識をしっかりとおこなう必要があります。今年度の大会では、世界を視野に入れた中国人留学生などの移動者の現状把握から、中国を中心とする貧困問題・消費問題・階層問題、さらには環境問題やメディアやサブカルチャーの問題、農村部の問題や老親扶養などの家族問題、そして旧満州の問題や近現代の知識人の問題、日中間のトランスナショナルな移動の問題と日中韓の学术交流の問題などの論題が、自由報告やシンポジウム報告として論じられます。これらを的確に捉えて、今後の日中関係を核とした東アジアや世界の未来への展望を切り拓くことが求められています。大会での議論が、こうした方向性をも加味して、稔り豊かなものとなるよう心から念じており

ます。

最後になりましたが、大会開催校の坂部晶子理事に御礼申し上げるとともに、共催として名古屋大学大学院人文学研究科が加わってくださり、感謝に堪えません。さあ、会員の力を合わせて、次の一歩へと踏み出していきましょう。

■第35回大会開催をお受けするにあたって

第35回大会実行委員長
坂部晶子（名古屋大学）

日中社会学会の第35回大会が、6月3日、4日に名古屋大学東山キャンパスにて開催されます。本学会の大会としては、コロナ禍による3年間のオンラインでの学会をはさんで、4年ぶりに対面を主とした大会開催となります。名古屋大学人文学研究科には共催をいただくことになり、この場を借りて感謝申し上げます。

まさに「今回の大会を引き受けるにあたって」、開催校責任者として、わたしが出した条件が「対面での開催」でした。対面での報告やディスカッションを重視しているということ以上に、インターネットやオンラインでの素早いタイムリーな交渉や伝達といった手段にうまく乗っかることに対する嫌悪感というか疎外感がベースにあったと思います。言ってみれば、たんに新しいシステムや道具立てについていけない、というだけのことですが（万一ハイフレックスの部分がうまくいかなかったら、ごめんなさい）、このところの情報環境の変化によって、大学の卒論はワープロで書き（手書きもいた）、修論はパソコンでフロッピーディスクに保存し（手書きも一人だけいた）、博論はUSBでというように、こうした状況に追従すること自体に懸命でなければならなかった風俗の変化の渦中でおぼれそうになりつつ時代を経過してきたことへの感慨があります。

デジタルやらネットやらへのアクセスだけでなく、諸々の近代化の効率性への追従への距離感を、春日直樹の『遅れの思考—ポスト近代を生きる』（東京大学出版会、2007）のように主張したい部分もないではないですが、どちらかといえばこの「対面での開催」への固執は、議論の出発点としてというより本人の趣味志向の問題のようです。そして、シンポジウムを企画するなかで、実際にこの3年間で蓄積されたZOOMでの打ち合わせの手軽さは、往復数時間や数日間をかけた会議への参加に打ち勝ち、自由報告は対面、シンポジウムはハイフレックスという今回の形式へとたどり着きました。

ともあれ、久しぶりの対面での学会開催となります。そのため、懇親会も遠慮せず、学内のレストランですが対面で行います。この数年、しばしばいわれてきたことですが、直接会って話し合うことの大事さもありますし、さらに報告や会議のあいまの個人的なおしゃべりや情報交換、新しい人との出会いからのインスピレーションといった行間での余禄が含まれていると思います。学会での議論とともに、そうしたスケジュールの行間での出会いも楽しんでもらえれば嬉しいです。

■開催校シンポジウム

「中国・大衆文化・メディアにかんする研究視点と方法への試論」

坂部晶子（名古屋大学）

このシンポジウムを企画するにあたって出発点となったのは、漫画『フィチンさん』との出会いとそれについてここで登壇者としても来席していただいた上田貴子先生たちとの対談である。わたしは50年過ぎの人生の大半を漫画など大衆文化の影響下で過ごしてきたが、それを対象化させることはとくになかった。「満洲」の哈爾濱で育った作者、上田としこが中国人の少女を題材に描いた『フィチンさん』を読み解く議論にはそうした体験を言語化することの面白みがあるように思われたのである。

日本と中国のあいだには政治、経済、文化的なかわりもともとよりもっと低俗で大衆的な分野でのかかわりも大きい。さらに歴史的なつながりも長期的である。大衆文化をめぐる議論としても、西遊記や三国志などの有名作品や、包青天の故事などの古典文学や文化にもとづく研究から、近現代における植民化や日本アニメの文化的侵略を含めた文化帝国主義論まで多様にあると考えられる。近年では、（日中間に限らず）ソフトパワーとしての映画やドラマ、大衆文化の影響力が議論されることも多い。ただそれにもかかわらず、中国にかんする社会学の領域で、「低級文化」としての漫画や大衆文化そのものが題材にあがることはあまり多くはなかったではないか。

本シンポジウムでは、中国近現代史の専門家、日本のメディア・大衆文化の研究者、中国での日本思想史とメディアの研究者の方々に、「中国・大衆文化・メディアにかんする研究視点と方法」について、それぞれの領域から自由にその蓄積や問題点、さらに可能性について議論していただき、この分野の初発的な議論の出発点としてみたい。

報告：

祝力新（中国伝媒大学）「中国における日本漫画の伝播及び受容——中国漫画アプリケーションを例にして」

石田あゆ（桃山学院大学）「好戦的サブカルチャー消費にみる日本人の戦争観——日独決戦ブームからの変化」

上田貴子（近畿大学）「漫画にみられる中華表象と対中感情」

司会：磯部美里（国際ファッション専門職大学）

コメンテータ：原田忠直（日本福祉大学）、坂部晶子（名古屋大学）

■シンポジウムⅡ

「日中間の学術交流と『日中社会学研究』の新たな 30 年に向けて」

佐藤千歳（研究・大会委員会、北海商科大学）

大会 2 日目に開催するシンポジウムⅡは、本学会発行の『日中社会学研究』が創刊から 30 年を迎えたことを記念し、同誌と本学会を日中学術交流の場としてとらえ、これまでの学術交流の歩みを振り返るとともに、今後の交流の可能性や課題を探ります。米中関係の対立を軸としたイデオロギー対立が顕在化した影響もあり、日中間の学術交流の置かれた環境は良好とはいい難いですが、登壇者の多様な経験を踏まえ、今後の学術交流を展望し、さらに研究の手がかりを考えるシンポジウムにできればと企画しました。本学会会員に加えて、活発に活動されている中日社会学会の会員も登壇し、中国側の視点からも問題提起が行われる予定です。

■大会への参加方法

◎大会参加費

大会参加費：一般会員 2000 円、学生会員 1000 円、非会員 2000 円。

◎懇親会

懇親会は、6 月 3 日（土）18 時より、名古屋大学東山キャンパスにある豊田講堂 2 階のレストラン・ユニバーサルクラブにて開催します。地下鉄名古屋大学の 1 番出口から 3 分程度、大会のメイン会場である文学部棟から歩いて 5 分程度です。

懇親会の参加費は、一般 4000 円、学生 3000 円です。

◎参加申し込み方法

下記リンク先よりお申込みください。

<https://forms.gle/YqoU7TqsMg74MkEv5>

*参加の申し込みをされた方には、後日、ZOOM URL をご案内させていただきます。

◎会場案内

本ニューズレターの末尾にあります。

日中社会学会 第 35 回大会プログラム

日時 2023 年 6 月 3 日(土)、4 日 (日)

開催校 名古屋大学 (大会開催校責任者 坂部晶子理事)

共催 名古屋大学大学院人文学研究科

大会担当理事 中村圭 (島根県立大学)、陸麗君 (福岡県立大学)、南誠 (長崎大学)、佐藤千歳(北海商科大学)

大会スケジュール

6 月 3 日 (土)		6 月 4 日 (日)	
12:30	受付開始	9:00	受付
13:00	開会式 会長挨拶 西原和久	9:10-10:40	自由報告Ⅱ セッション D・E・F
13:10-14:40	自由報告Ⅰ セッション A・B・C	10:40-10:50	休憩
14:40-14:50	休憩	10:50-12:20	自由報告Ⅲ セッション G・H・I
14:50-16:50	シンポジウムⅠ 「中国・大衆文化・メディアに かんする研究視点と方法への 試論」	12:20-13:00	休憩 ※理事会議
16:50-17:00	休憩	13:00-15:00	シンポジウムⅡ 「日中間の学術交流と『日 中社会学研究』の新たな 30 年に向けて」
17:00-17:30	総会	15:00-15:10	閉会式
18:00-20:00	懇親会		

開催方法：シンポジウムⅠ、Ⅱは対面とオンラインを併用したハイブリッド方式で開催し、自由報告と開会式、総会是对面のみで開催いたします。

自由報告について：自由報告は発表時間 20 分間、質疑応答 10 分間で実施しますので、時間厳守をお願いします。発表者は、各自で配布資料を 30 部用意し、会場で配布してください。

自由報告 I

セッション A 会場 127 号室 司会 奈倉京子（静岡県立大学）

- ① 金京（愛知大学国際中国学研究センター）
「アイスランドにおける中国人留学生の流動と定着の影響要素に関する分析」
- ② 新井凜子（大阪大学大学院）
「中国人留学生のライフヒストリーに見る移動と国家」
- ③ 川村潤子（名古屋大学人文学研究科 博士後期課程）
「在留資格「技能」所持者の中国人移住者の実態—中華料理店店主を中心に」

セッション B 会場 128 号 司会 中村圭（島根県立大学）

- ① TAN TIANYI（北海道大学文学院）
「女性ウェイト・ピッカーの生活史研究—山東省東営市東営区を事例に」
- ② 王雪菲（早稲田大学人間科学研究科）
「中国都市部における既婚女性の無業の規定要因—CGSS データに基づく実証分析」

セッション C 会場 129 号室 司会 南裕子（一橋大学）

- ① 万峻滕（桃山学院大学）
「中国地方都市における動漫グッズ店の考察—泰安市を例に分析する」
- ② 張紫萱（京都大学文学研究科社会学専修）
「小中学生の学校外教育における新中間階層の母親業実践 —上海市と南京市の女性を対象として」
- ③ 許俊卿（大阪大学）
「中国の京津冀地域における PM2.5 問題をめぐるリスク認知の一考察—生活経験に基づく解釈を中心に」

大会シンポジウム I 会場 237 号室

「中国・大衆文化・メディアにかんする研究視点と方法への試論」

報告者

祝力新（中国伝媒大学）「中国における日本漫画の伝播及び受容——中国漫画アプリケーションを例にして」

石田あゆ（桃山学院大学）「好戦的サブカルチャー消費にみる日本人の戦争観——日独決戦ブームからの変化」

上田貴子（近畿大学）「漫画にみられる中華表象と対中感情」

司会 磯部美里（国際ファッション専門職大学）

コメンテータ 原田忠直（日本福祉大学）、坂部晶子（名古屋大学）

自由報告Ⅱ

セッション D 会場 127 号室

司会 大谷順子（大阪大学）

- ① 李丹,向柳春, 楊非凡（東京農工大学大学院）

Research on Medical Service Utilization of Migrant Population in China Under the Background of "Equalization of Basic Public Services"

- ② 向柳春, 李丹, 聂海松（東京農工大学大学院、東京農工大学）

The association between digital divide and Chinese older adults' subjective well-being -An empirical research based on the China Longitudinal Aging Survey (CLASS)

- ③ ZUO Wenmin（早稲田大学）

County Government in China: An Examination of Organizational and Personnel Systems
—Taking J County as an Example—

セッション E 会場 128 号室

司会 佐藤千歳（北海商科大学）

- ① 段玉（北海道大学文学院）

「人口減少時代における中国農村地域と宗教団体—山西省繁峙県の仏教寺院を例に」

- ② 賀玉辰（中央大学社会科学研究所）

「中国の老親扶養と憲法 49 条 3 項」

- ③ 李謨煒（早稲田大学人間科学研究科）

「農民層出身者の世代間移動の日中比較」

セッション F 会場 129 号室

司会 鍾家新（明治大学）

- ① 劉罡（名古屋大学人文学研究科）

「引揚者と戦後日本社会：在外財産補償運動を事例にして」

- ② 華京碩（龍谷大学社会学研究科）

「戦間期における満洲の中国語新聞の社会報道に関する考察—1921 年～1931 年の日系及び中国語系新聞を中心に」

- ③ 閻美芳（龍谷大学）

「人民公社時代の中国農村女性の副業と財産へのアクセス」

自由報告Ⅲ

セッション G 会場 127 号室

司会 穂山新（法政大学）

- ① 張亮（京都大学大学院人間・環境学研究科）

「中国の知識人はいかなる「西洋イメージ」を構築したか？—『読書』雑誌に基づく言説分析」

- ② 王星星（早稲田大学）

「清末中国における慈善団体の近代化—天津広仁堂の女性たち（1878～1906）」

セッション H 会場 128 号室

司会 陸麗君（福岡県立大学）

- ① 李行健（北海道大学大学院文学院）「場所をめぐる葛藤—神宮外苑再開発における土地利用の諸相」
- ② 盤大琳（早稲田大学人間科学研究科）「日本における継承語としての中国語教育の現状と課題—H 中国語教室の活動を事例に」
- ③ 龍在恬（信州大学総合人文社会科学研究科）「反右派運動における「右派」の構築—1957 年～1961 年中国甘肅省酒泉における夾辺溝右派の証言から」

セッション I 会場 129 号室

司会 松谷みのり（追手門学院大学）

- ① 劉亜銘（名古屋大学人文学研究科）
「戦後の在日中国人研究からみる『後期ニューカマー中国人』」
- ③ 孟令齊（一橋大学社会学研究科）
「東アジアにおける性的マイノリティの移動と権力関係：在日中国系移民を事例に」
- ④ 齊艶栄（横浜市立大学都市社会文化研究科）
「村から村へ—西川口華人コミュニティの形成と中国農村移民の関係」

大会シンポジウム II 会場 237 号室

「日中間の学術交流と『日中社会学研究』の新たな 30 年に向けて」

報告者

西原和久 日中社会学会会長 「21 世紀の日中・中日社会学会の交流を振り返る」

宋金文 中日社会学会会長

「中日社会学会と日中社会学会における学術交流の意義と展望」（仮題）」

首藤明和 日中社会学会元会長 「日中社会学会を通じた学術交流について」

江口伸吾 『日中社会学研究』前編集長 「日中社会学研究における学術交流」

コメンテーター 李妍焱（『日中社会学研究』編集委員長）

司会 佐藤千歳（研究・大会委員会、北海商科大学）

■事務局からのお知らせ

◎2022 年度会計報告

I 一般会計報告

収入総額	2,518,879
支出総額	670,605
差し引き残額(次年度繰越金)	1,848,274

※残額内訳

郵便局定期預金	0
郵便振替口座	0
PayPal口座	0
郵便局普通口座	1,801,230
現金	47,044
合計	1,848,274

収入の部

費目	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越金	1,748,365	1,748,365	0	
年会費	800,000	766,000	▲ 34,000	
機関誌販売	3,000	4,500	1,500	
雑収入	0	14	14	預金利子14円
合計	2,551,365	2,518,879	▲ 32,486	

支出の部

費目	予算額	決算額	差額	備考
『日中社会学研究』制作費	420,000	363,000	57,000	30号印刷
事業費(学会誌電子化)	150,000	92,710	57,290	『日中社会学研究第28号』データベース掲載 『21世紀東アジア社会学』12号電子ジャーナル化
事業費(HPリニューアル)	100,000	0	100,000	
事業費(過去史料のデータベース化)	100,000	0	100,000	
事務費	20,000	2,614	17,386	
通信費	100,000	84,954	15,046	
会議費	0	0	0	
事務局補助謝金	70,000	60,000	10,000	1名(時給1500円)
大会補助	250,000	57,327	192,673	
年会費	10,000	10,000	0	社会学系コンソーシアム会費
予備費	1,331,365	0	1,331,365	
合計	2,551,365	670,605	1,880,760	

2022 年度会計報告（続き）

Ⅱ 第34回大会特別会計

日時 2022年6月4日
会場 ZOOM開催
大会会計担当者 佐藤千歳

収入総額	57,327
支出総額	57,327
残額	0

収入の部

大会補助	57,327	学会一般会計より
計	57,327	

支出の部

	予算額	決算額	備考
zoom契約料金;1回線2000円	8,000	0	開催校担当者のアカウントを使用した。
分科会アルバイト	15,000	15000	10:00-15:00、3人、時給1000円
SpatialChat運営、使用説明書執筆	6,000	6000	
弁当昼食	6,000	8316	
弁当夕食	2,000	1180	
飲料、お茶菓子	2,000	1751	
講演謝礼	20,000	20000	北海道大学吉開先生
スペースチャット		5080	40ドル(支払日レート1ドル127円で換算)
計	59,000	57327	

上記の通り、ご報告申し上げます。

日中社会学会事務局 会計担当理事 聶海松

◎入退会のお知らせ

2022 年度 新入会員 46 名（一般会員 2 名、学生会員 44 名）。

◎『日中社会学研究』第 30 号公刊のお知らせ

2023 年 3 月に『日中社会学研究』第 30 号が公刊されました。2022 年度の学会費をご納入済の方には発送させていただきましたが、万が一、お手元に届いていらっしゃらない場合には、お手数ですが事務局までご連絡をお願いします。

◎『21 世紀東アジア社会学』第 12 号公開のお知らせ

2023 年 3 月に『21 世紀東アジア社会学』第 12 号が公刊されました。J-stage 上でご覧になれます。

◎事務局からのお願い

- ・メルマガ届いていますか？

本学会では、google グループのメーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。

メールマガジンが届いていない方や、未登録の方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

- ・情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

- ・会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支えられております。2023 年度までの会費納入をお願いいたします。

一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

* インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は下記になります。

店名：〇一九店 店番：019

口座番号：0161801

* 海外からご送金の際は、事務局までお問い合わせください。

- ・異動、住所変更の際はご一報を！

異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニューズレター No.87（発行日：2023 年 5 月）

編 集：南 裕子（一橋大学）

発 行：日中社会学会事務局

〒697-0016

島根県浜田市野原町 2433-2

島根県立大学 中村圭研究室

日中社会学会・公式 HP <http://www.japan-china-sociology.org/>

会場アクセス

学会で用意した駐車場はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用の上お越しください。お車でお越しになる場合は、名古屋大学周辺の有料駐車場（大学の西側に PARK ZEUS：一日最大 700 円、PARK BASE：一日最大 800 円など。ただし、駐車スペースは限られております）がございますので、そちらをご利用ください。

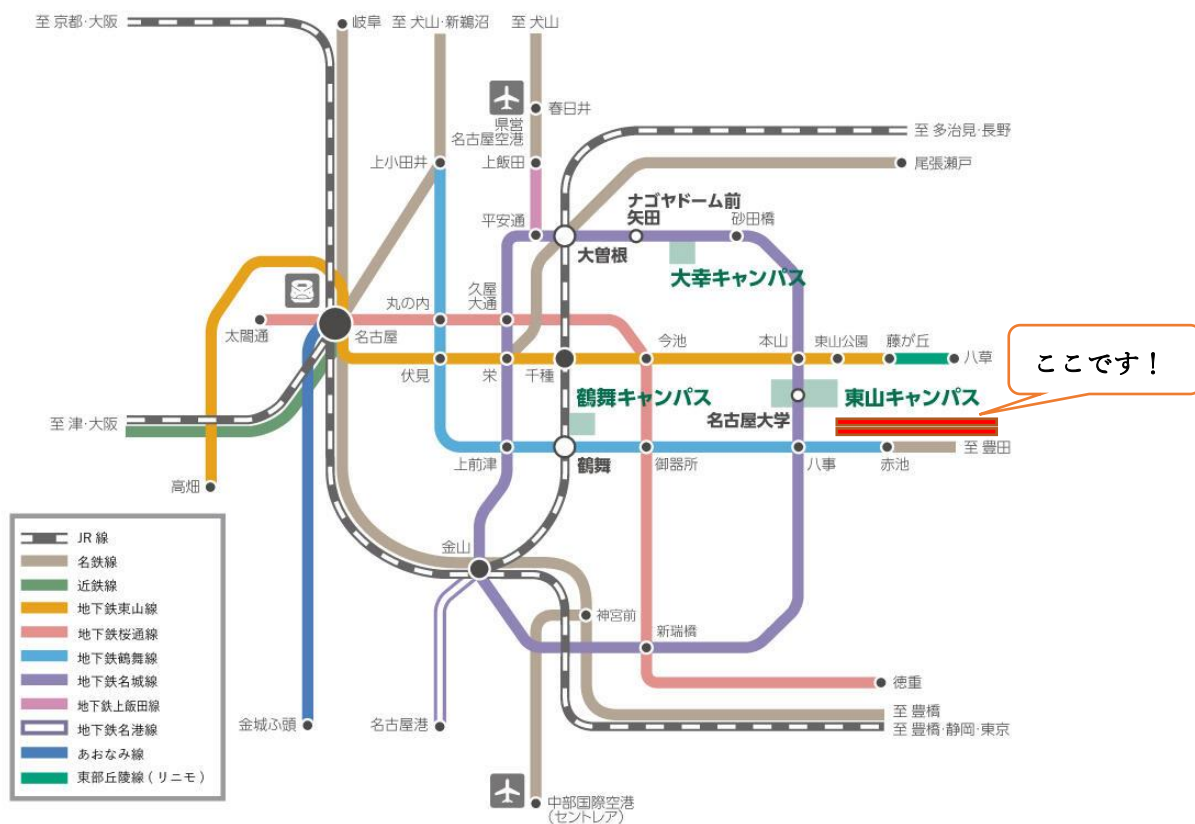
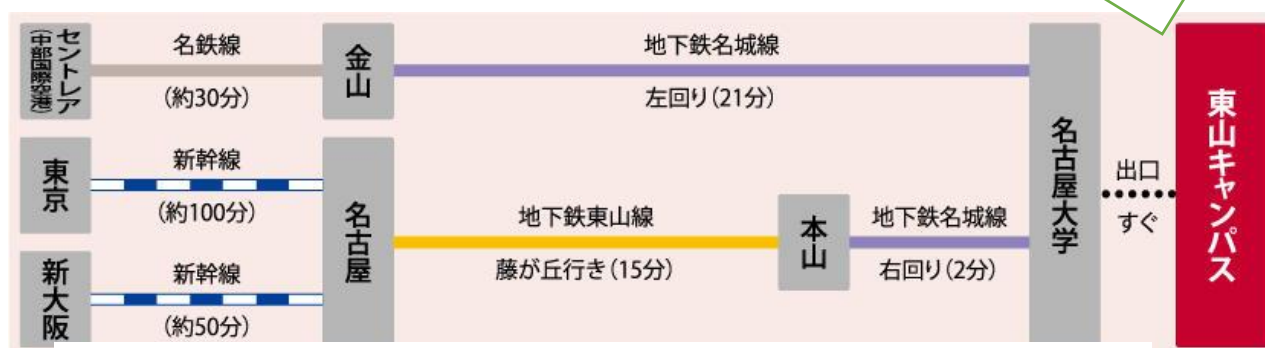
名古屋大学への交通アクセス

○電車

地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ

「1 番出口」から出られると会場に最も近いです。

名古屋大学には鶴舞キャンパス、大幸キャンパスがあります。今回の会場は、東山キャンパスです。お間違いないようご注意ください。



a-u.ac.jp/access/

○バス（名古屋市交通局より）

「名古屋駅」バスターミナル 3 番乗場（名駅 17 地下鉄吹上経由、名古屋大学行）約 5 0 分

(名駅17) 名古屋駅—名古屋大学 [地図](#)

名古屋駅(3番)	
従島町(6番)	名古屋駅(降車)
下広井町(1番)	下広井町(2番)
下広井町三丁目(1番)	下広井町三丁目(2番)
新洲崎橋(1番)	新洲崎橋(2番)
白川公園(1番)	白川公園(2番)
若宮	若宮
矢場町(1番)	矢場町(2番)
丸田町(1番)	丸田町(2番)
千早小学校(1番)	千早小学校(2番)
千早(1番)	千早(2番)
吹上(1番)	吹上(2番)
地下鉄吹上(1番)	地下鉄吹上(2番)
大久手(1番)	大久手(2番)
春岡通(1番)	春岡通(2番)
丸山本通(1番)	丸山本通(3番)
日進通五丁目(1番)	日進通五丁目(2番)
田代本通(2番)	田代本通(3番)
田代本通(1番)	田代本通(4番)
見付小学校	見付小学校
四ツ谷通三丁目(1番)	四ツ谷通三丁目(2番)
名古屋大学(2番)	



「栄駅」バスターミナル 19 番乗場（オアシス 21 方面、名古屋大学行）約 1 時間

(栄17) 栄—名古屋大学 [地図](#)

栄(19番)	
栄(17番)	栄(降車)
白川通大津(1番)	白川通大津(4番)
矢場町(4番)	矢場町(6番)
丸田町(1番)	丸田町(2番)
千早小学校(1番)	千早小学校(2番)
千早(1番)	千早(2番)
吹上(1番)	吹上(2番)
地下鉄吹上(0番)	地下鉄吹上(2番)
青柳町(1番)	青柳町(2番)
安田通	安田通
宮裏	宮裏
川原通(5番)	川原通(2番)
山花町	山花町
前山町	前山町
楽園町	楽園町
八雲町	八雲町
名古屋大学(1番)	



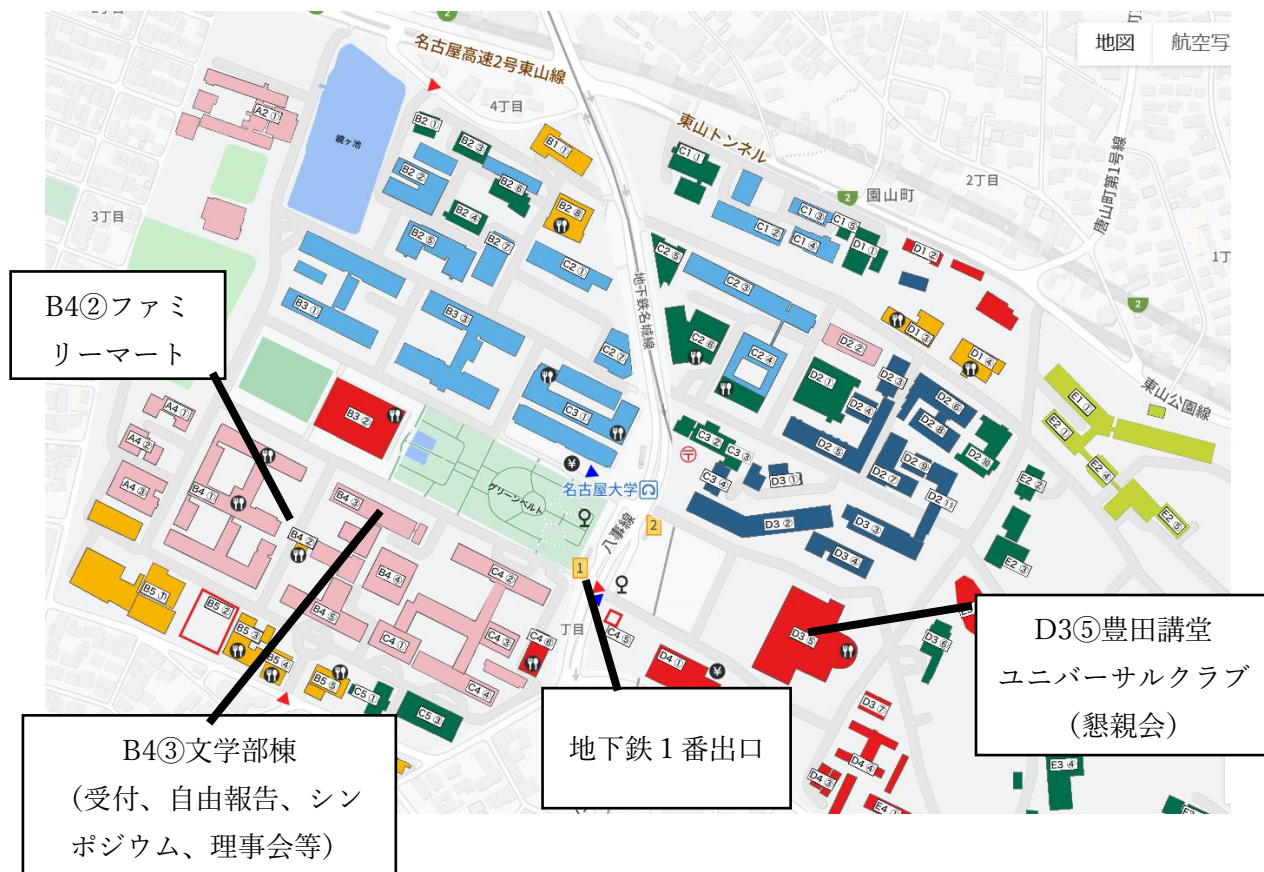


■東山キャンパス周辺地図

<https://map.goo.ne.jp/map/latlon/E136.58.10.400N35.9.4.600/zoom/8/>

■東山キャンパスマップ

会場は、B4③文学部棟（受付、自由報告、シンポジウム、理事会等）と D3⑤豊田講堂内のレストラン・ユニバーサルクラブ（懇親会）です。



■宿泊施設について

金山駅周辺

- (1) コンフォートホテル名古屋金山（金山駅から徒歩 1 分、052-871-2811）
- (2) 名鉄イン 名古屋金山 アネックス（金山駅から徒歩 1 分、052-323-3434）
- (3) サイプレスガーデンホテル（金山駅から徒歩 2 分、052-679-1661）
- (4) ホテルリブマックス名古屋金山（金山駅から徒歩 5 分、052-681-1140）
- (5) 東横 INN 名古屋金山（金山駅から徒歩 9 分、052-339-1045）

名古屋駅周辺

- (1) HOTEL PRIZM（ホテルプライズム）（名古屋駅から徒歩 2 分、052-485-6919）
- (2) 名鉄グランドホテル（名古屋駅から徒歩 3 分、052-582-2211）
- (3) 名鉄イン 名古屋駅新幹線口（名古屋駅から徒歩 3 分、052-453-3434）
- (4) アパホテル 名古屋駅新幹線口南（名古屋駅から徒歩 4 分、052-459-5611）
- (5) リッチモンドホテル 名古屋駅新幹線口（名古屋駅から徒歩 5 分、052-452-8145）

栄駅周辺

- (1) ホテル オリエンタル エクスプレス 名古屋栄（栄駅から徒歩 1 分、052-212-7275）
- (2) 名古屋ガーランドホテル（栄駅から徒歩 5 分、052-242-6363）
- (3) AB ホテル名古屋栄（栄駅から徒歩 6 分、052-263-1005）
- (4) ホテルフォルツァ名古屋栄（栄駅から徒歩 7 分、052-238-1588）
- (5) プリンセスガーデンホテル栄（栄駅から徒歩 7 分、052-262-4111）

【その他連絡事項】

- ・昼食については、土曜・日曜日は大学内の食堂は閉まっていますので各自で持参されることをお勧めします。上記、「東山キャンパスマップ」の B4②にはコンビニエンスストア（ファミリーマート）があります。地下鉄 1 番出口の南側には、小さい飲食店も数か所あります。